

# 会員の皆様へ

名教就美会

会長 永井孝雄

(昭和49年金属工学科卒業)



## 1. はじめに

令和2年世界に広がった新型コロナウイルス感染症の第4波、5波は猛威を振るい、その影響で2021年もほぼ同窓会の事業は中止かオンライン開催に追い込まれてしまいました。通常なら6月に開催の総会も8月21日Zoomによるオンラインリモート（以下Zoom）開催となりました。

幸い第5波は10月になり急激に収束しましたが、行政は、第6波の襲来を警戒して未だ大勢の会食については慎重に対処する姿勢を継続しています。今後のブラッシュアップ研修会や模擬面接会もZoom開催の予定です。

Zoom会議には対面会議に及ばない事が多々ありますが、その一方で遠隔地の方にとって会場までの往復時間が不要というメリットがあります。対面とZoomのハイブリッド方式が簡単にできれば良いのですが、現実には設備や技術スタッフの問題で容易ではありません。対面の場合Zoom側では音声と資料は共有できるので、発表主体の研修会や就職ガイダンスなどは可能でしょうが、個々の出席者との会話が主体の懇親会などではハイブリッド開催は困難です。万々コロナ第6波が来てもすぐに収まり、来年度の総会が対面で行えることを願っています。

## 2. 2021年11月に延期された理工系学部100周年記念式典が挙行されました

2021年11月20日土曜日、14:00～母校の教育文化ホールにて100周年記念式典が挙行されました。実行委員長である梅澤工学研究院長の式辞に続いて、梅原学長が祝辞を述べられました。その後来賓の文部科学省塩川教育課長、宮田校友会会長の祝辞が続き、最後は名教自然会会長として私より祝辞を述べさせていただきました。会場参列者としては、富丘会や友松会の代表と理工系各同窓会の会長や会員、大学側の各理事、副学長、研究院長の約40名でした。あらかじめ希望された方にはLive配信されたのでオンラインリモートで視聴も可能でした。残念ながら食事をしながらの祝賀会は新型コロナ感染防止の観点から中止となりました。

今回の100周年記念事業では100周年記念誌の編纂に加え、ホームページ上にこれまで編纂された、50年史、70年史、80年史、校歌、学生歌など過去の資料も閲覧できるようにいたしました。50年史、70年史を拝読しますと、先人の本学にかける熱い想いが伝わってまいります。多くの紙面が割かれているのは、初代鈴木達治校長と名教自然、それに財団法人横浜工業会設立のくだりです。

皆様ご承知の通り「名教自然」とは、学問は強制されるものでなく、自らの意志で自発的に、自由に学ぶべきものであり、自学自発の教育主義により優れた人材を育成する事である、との考えを四文字で表した、鈴木校長の名言です。この言葉は、昭和12年11月1日に除幕された名教自然碑に刻まれています。100周年事業として、清掃と周辺整備が行われ、汚れが付かないように光触媒のコーティングも行われました。裏側には、徳富蘇峰の撰文を原富太郎が楷書にした碑文が刻まれており2000年に国の登録有形文化財に指定されております。

一方、財団法人横浜工業会は、歴代工学部長や各学科同窓会長の工学部への熱い想いにより、昭和56年3月に設立されました。教職員や卒業生と企業からの寄付により、昭和63年には基本財産2億5千万円となり、平成20年には小山科学技術研究振興財団と合併し、基本財産5億6千万円の公益財団法人横浜工業会になりました賛助会費と基本財産運用益により、理工系の3大学院に対し

て主に教育研究活動に対する助成金援助を毎年1千万円以上行っております。

横浜工業会と対になる名教自然会と学科同窓会でも、在學生に毎年合計で500万円余の支援をしていますが、昨年は、100周年記念事業用に別途1,600万円を寄付いたしました。羽沢横浜国大駅からの、最寄りになる西門とその付近の整備に充てられる予定です。



その後、15:00～特別記念講演として、ノーベル賞受章者で旭化成株式会社名誉フェロー吉野彰先生から、「リチウムイオン電池が拓く未来社会」の演題で講演をいただきました。講演は、前半1時間ほどが、研究とノーベル賞受章まで、後半40分でリチウムイオン電池によるEVの台頭とCASE、MaaSによる未来の自動車、カーボンニュートラル、古典的な化学の重要性をお話しされた。その後学生会員から活発な質疑があり、梅澤実行委員長から締めくくりの挨拶が終了したのは17:00でした。

今回の講演は、対面講演は学生を主体とする、大学構内LANでの同時中継は可能でしたが、大学に来れない会員には視聴はかないませんでした。

講演と質疑を通じた印象は、素晴らしい人柄の研究者でした。紙面の制限で十分な内容をここでお伝え出来ませんが、興味深いご指摘として、以下の2点をご紹介します。

- ①日本は北海道を除いて再生エネルギー（以下再エネ）には適していないし、再エネ生産地と消費地が異なるので、外国から調達する必要がある。
- ②再エネ輸送の手段としては水素かアンモニアが有望なので、古典的な化学技術である水の電気分解が今新たな研究テーマになってきている。

皆様はいかがお思いになりますか？

### 3. 母校・校友会・3同窓会の状況

校友会が7年前に発足し、学長・校友会長・3同窓会長による定例会議が設定され、これまで交流のなかった他同窓会との意見交換が活発になり相互理解が深まっています。3年前より校友会・富丘会と共催で、神奈川に縁のある一流企業の経営者15名による連携講座を開催しています。今年度も関係者の協力で開催できることになりました。また模擬面接会についても昨年度同様今年度もZoom開催となります。名教就美会会員から6人の模擬面接官に対応いただきます。

#### 4. 学長ビジョン「知の統合型大学」として「世界水準の研究大学」を目指す

2021年4月から就任された、梅原新学長は4つのビジョンを掲げ、その中でVision2の研究では、世界水準の研究大学として、ポストSDGsの課題をも見据えた先進的・実践的・学際的研究を推進する。またダイバーシティを重視し、個々の教員の多様で自発的な研究を尊重するとともに、それらを横断化し、拠点化する仕組みを活用し、イノベーションに貢献すべく他機関との連携を強化する。併せて、多様なステークホルダーとの関係をプラットフォーム化し、企業・自治体等との連携を深める。

とされています。この中には先端高等研究院に新たに設けられた台風センタも含まれています。名教就美会は、今後も理工学部・工学研究院・環境情報研究院を支援してゆきます。

#### 5. 名教自然会と（公財）横浜工業会の状況について

横国大同窓会としては、教育系友松会、経済・経営の富丘会、理工系の名教自然会が3同窓会としての枠組みを形成しております。名教自然会は理工学部数理科学EPと都市科学部の環境リスク共生学科の卒業生と既存8同窓会による団体加入会員からなっており、名教就美会は団体として加入しております。

（公財）横浜工業会は教員・企業・卒業生の寄付を基金とし、毎年大学の教員・学生に毎年約1千万円の助成をしております。横浜工業会だよりを同封しておりますので詳細はそちらをお読みください。また賛助会員を募集しております。賛助会費は税額控除が適用になりますので、名教就美会会員からの応募をぜひお願いいたします。

#### 6. 来年度の抱負

理工系卒業生の地域同窓会として、近畿同窓会、東海同窓会、静岡中部同窓会がありますが、更に九州や北海道でも設立の動きがあります。コロナ禍によりいずれの会も2020年度は総会が中止になってしまい残念です。今年は例年通りの活動ができることを願っています。

大学への愛着が大学を強くすると言われております、母校への愛着をわかせましょう。

（令和3年11月23日記）